

[学年研修目標] 自分の思いを持ち、自然や友達との関わりを大切にして活動する子

[活動のテーマ] ときどき わくわく! ともだちいっぱい

1 具体的な活動内容と児童の表れ

2 学期

(1) あきとなかよし

目標

- ・秋の公園や野原での遊びや草花、木、虫などの観察、人との関わりを通して、自然や生活に見られる季節の変化に気づくことができる。
- ・落ち葉や木の実で遊んだり、遊ぶ物を作ったりして、友達といっしょに楽しく遊ぶことができる。

おちばやきのみであそぼう

おちばやきのみでつくろう

10月も半ば頃になると、休み時間に体育館の周りのあたりから、クヌギやシイの実を拾ってくる子が増えてきた。そして、拾ったドングリを転がして遊んだり、回して遊んだりする姿が見られた。そのうちに子どもたちから、もっと拾いたいという声が聞かれるようになった。そこで普段は入ることができない校内の駐車場で、1日だけドングリを拾わせてもらった。どの子もたくさんのドングリを拾うことができ、とても満足そうであった。幼稚園のときの経験から、ドングリでこまを作りたいということになり、穴あけ器を使ってこま作りに取り組んだ。できたこまをまわす活動を通して、うまく回せるように工夫したり、互いにまわし方を教え合ったりするなど、子ども同士の関わりが多く見られた。

11月の初め頃、香貫山探検に出かけた。公園や学校にはないカラスウリや栗などの木の実を歩きながら見つけたり、山の秋の様子を見たりすることができた。



(2) わたしのかぞく

目標

- ・家の仕事を探す活動を通して、家庭生活における家族の役割とそれを支えている家族の仕事の大切さに気づくとともに、自分の役割を見つけ、進んで取り組むことができる。
- ・家族と関わり、親しみを深めることができる。

かぞくをしょうかいしよう

おてつだいだいさくせん

家族を紹介する活動の中で、お母さんの家での仕事を紹介した子がいたことから、家の中の仕事を調べてみることにした。1週間、いつ誰がどんな仕事をしていたか調べた子どもたちは、家の中にはいろいろな仕事があり、お母さんやお父さん、おばあさんやおじいさんの家族みんなで仕事をしていることや、その中でもお母さんの仕事がとても多いことに気づくことができた。また、子供たちの中には、洗濯物をたたんだり、お風呂掃除をしたりするなど、毎日お手伝いをしている子が多いことも知り、自分たちにもできるお手伝いがないか考えることになった。「毎日できる。」「一人でもできる。」「お手伝いを、一人一人決め、実践することになった。今までやっていた新聞取りや靴そろえ、はし並べなどの簡単なお手伝いにだけでなく、今までやったことのないお手伝いに挑戦する子どもたちの姿が見られた。子どもたちからは、「せんたくたたみははじめてだったけれど、おしえてもらったらきれいにたためたよ。」「おふるがきれいになってきもちよかったよ。」など、できなかったことができるようになった喜びの声が聞かれた。また、お母さんの大変さに気づき、自分はもっとできるお手伝いをしたいという、お手伝いに対する意欲もでてきた。ちょうど冬休みを迎えようとしていたので、休みの間にやる仕事を決め、実践することになった。その活動の中で、手伝いが日常化した子も何人かいた。

3 学期

(3) ふゆとあそぼう

目標

- ・冬の自然と遊んだり、お正月の遊びをしたりすることを通して、季節の変化を感じ、楽しむことができる。
- ・遊びを教えたり教えてもらったりすることを通して、いろいろな遊びを楽しんだり、友達のよさに気づくことができる。

ふゆをみつけよう

3学期に入り、子どもたちは、登校の途中で水に張った氷を見つけて持って来たり、畑の霜柱を見つたりして、冬の様子に気づき始めていた。そこで冬の様子を見に行こうということになり、学校のどこに冬があるか探すことになった。なかなか見つからない中で、「はたけで見たよ。」という子どもの声から探しに行ったところ、学級園の周りにたくさんの霜柱を見つめることができた。霜柱を踏み「サクサク」とした音を聞いたり、手でさわってその冷たさを実感することができた。

音楽で「たきび」の歌を歌っていたところ、子どもたちが「さざんか」の花を知らないことがわかった。そのため学校の近くに咲いているさざんかを見に行ったところ、秋の実であるはずのじゅず玉やひつつき虫が学校の北側の田んぼ道で見つけることができた。子どもたちに遊ばれず、冬になってもまだ残っていることに驚きを感じた。

お正月のあそびをしよう

冬休みに、子どもたちは、それぞれ家庭でお正月の遊びをやってきたので、クラスの子どもたちともやりたいという声が聞かれた。そこで、カルタ・すごろく・福わらい・はねつき・独楽など、グループごとに遊んで楽しんだ。そんな中で百人一首を持ってきた子がいたので坊主めくりをしたグループがあった。ほとんどの子が初めてやったのだがとても楽しそうだった。他のグループに貸してあげて、やり方を教えてあげる姿が見られた。子どもたちなりにルールを決めたり、協力したり、教え合ったりするなど、友達同士の関わりが多く見られた。

ふゆのあそびをしよう

お正月遊びをした後、冬にしかできない遊びをしたいという声が聞こえ、凧を揚げることになった。揚げる向きを、上手に揚げている友達の様子を見て気づいたり、友達の糸と絡まったのを必死にほどいたりする姿が見られた。風を利用して凧を揚げる体験ができた。

(4) もうすぐ2年生

目標

- ・入学してからの1年間を振り返り、自分の成長に気づくことができる。
- ・新1年生を迎える準備をして、自分たちの成長を喜ぶとともに、2年生に進級する自覚と喜びを持つことができる。

できるようになったよ

4月から今までのことを振り返り、自分たちができるようになったことは何か投げかけてみると、「かんじがかけるようになった。」「たしざんやひきざんができるようになった。」「なわとびでいろいろなとびかたができるようになった。」など、たくさんのお話ができるようになったという声が子どもたちから聞かれた。それらのことを家の人にも見てもらいたいという気持ちから2月の最後の参観日に、家の人前で発表することにした。

子どもたちは、自分の発表したいことを決め練習にとりかかった。発表することを決めたものの、自信のなかった子どもたちも練習を重ねていくうちに、早く発表したいという気持ちになっていった。

発表会の当日に、めあてを言ったり、大勢の前で発表したりすることにより、さらに自分に自信を持つことができた様子を感じられた。

お世話になった6年生にかんしゃしよう

4月から、南っ子活動や掃除、休み時間の遊びなどで、ずっとお世話になっている6年生も、もうすぐ卒業して中学生になることが分かると、ありがたい気持ちをこめて何かしたいということになった。子どもたちからは、「お手がみをかきたい。」「にがおえをかきたい。」「おれいのことばをいいたい。」「6年生がすきなうたをうたってあげたい。」など、いろいろな思いがでてきた。そこで、ペアの6年生の似顔絵をかくてプレゼントすることと、ありがたい気持ちをこめて、歌を歌ったり呼びかけをしたりすることにし、「6年生ありがとう」の会を行うことにした。

2 今後の活動

- ・2月27日に「6年生ありがとうの会」を行う予定である。
- ・「もうすぐ2年生」

新しい1年生を迎えるために、自分たちはどんなことができるか、どんなことをしたいかを考え、その準備をしていく予定である。

3 活動の成果と課題

(1) 活動の成果

- ・いろいろな活動をする中で、友達との関わりの深まりが感じられた。3学期になって、今までいっしょにいた友達ともうすぐ別れると気づいた時、さみしさと友達といっしょにいる良さを実感したようである。
- ・できるようになったことの発表や、6年生に感謝する活動を通して、成長の喜びや、自分の成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちを持つことができた。

(2) 課題

- ・子どもたちが、本当にやりたい気持ちから始められた活動でないと、意欲は続かない。意欲を継続させるためにも、教師がルールをひいた活動にならないようにしたい。